

「ライティングの指導と評価」

司会者: 滝沢 雄一(金沢大学)
提案者: 工藤 洋路(玉川大学)
駒井 健吾(長野県須坂高等学校)

本セミナーにおいては、ワークショップ形式を取り入れながら、ライティング活動や評価のしかたについて、具体的に提案を行う。各提案の後、短時間ではあるが、近くの参加者同士での情報交換や意見交換を行いたい。

工藤 洋路 (玉川大学)

教科書に見られる多くのライティングの活動は、モデルや細かいステップが提示され、表現リストを参照しながら、学習者が書きやすいような手立てがなされている。一方、このような補助がある中のトレーニングでは、自力で書く力が育成されないという問題点もある。本プログラムでは、教科書のライティング活動を例にとり、モデルの効果的な扱い方などを含めて、ライティング指導の在り方を考えていきたい。加えて、ライティングの評価についても、活動の評価という視点と能力の評価という視点の両面から具体的な手法を提案したい。

駒井 健吾 (長野県須坂高等学校)

ライティングの指導と評価は、その活動の目的によって変わりうると考えられるが、今回は大学入試のいわゆる「自由英作文」問題を1題取り上げ、ワークショップ形式で会場のみなさんにご参加いただきながら検討する。問題について、フロア参加者に、(A) 個人で考え、書く、(B) ペアで考え、書く、(C) ペアで話した後、個人で考え、書く、の3つの方法で取り組んでいただく。その後、各指導法に従って、どのような形の評価がなされうのかを探る。評価に関しては、(a) 内容(質)の評価、(b) 評価に掛かる時間(経済性の問題)、(c) 学習者が何を学んだのかという問題、の3点の切り口で考えてみたい。その後、指導や評価に関して、学習者の習熟度に応じて、どのような工夫がなされうるかについてフロア全体で考えていく予定である。